

半田市民の公共交通利用実態および意識に関するアンケート調査

■概要

1 回収結果

- 配布3,114票、回収1,225票で回収率は約39%

2 属性

- 性別、年代、職業、小学校区等、偏りなく回答を得た（小学校区ごとに50票以上を回収）

3 普段の目的地別の行き先

- 駅：名鉄知多半田駅、名鉄青山駅、JR亀崎駅の利用が多い
- 病院：「市立半田病院」が最も多く（1,000件の回答のうち310件）、その他は各人で異なる
- 買い物：「パワードーム半田」（乙川）が最も多く半田、さくら、乙川、横川など施設周辺の小学校区からの利用が多かった。板山、花園、成岩地区は2番目に多い「フィールCフェスタ」（花園）の利用が多い
- 公的機関：「半田市役所」が最も多く（1,000件の回答のうち550件）、次いで「博物館・図書館」
- 上記の4つの目的では、「買い物」「病院」「駅」「公的機関」の順に利用頻度が高く、買い物については「週に1・2回程度」が約半数を占めた
- 自宅出発・帰宅時間：「駅」のみが異なり、買い物、病院、公的機関はいずれも午前中にピークあり
- 免許保有状況は、保有が約78%と高い割合。一方、免許を持っていない人も約20%存在

4 半田市内の公共交通

- 知多バスの認知度は、自宅の最寄りバス停の場所を知っている人が、ほとんど知らない人を上回ったが、「普段から利用している」と回答した人は約3%と非常に少ない。
- 小学校区で比較すると「板山地区」で利用する人の割合が高く、特に「常滑線」沿線で利用すると回答が比較的多い（ただし、「普段から利用する」との回答でも目的地は中部国際空港のケースもあり）
- 知多バスの利用頻度は、「年に数回程度」が約62%と高い割合を占め、目的地としては「中部国際空港」が最も多く、次いで「半田市役所」「市立半田病院」の順
- ダイヤ改正や廃止に伴い知多バスを利用しなくなった人は、有脇線沿線、半田、雁宿、岩滑、成岩地区で比較的多い

5. 知多バスの施策

- 「利用することはない」を除き、改善点としては①「本数が増える」、②「目的地への路線ができる」、③「バス停が近くにできる」が多い回答
- 改善方法として、「本数」については30分に1本以上、「目的地」としては名鉄知多半田駅、「自宅からバス停までの距離」としては100m以下がそれぞれ最も多い回答
- 改善した場合、知多バスで行きたい目的地は1位「名鉄知多半田駅」、2位「図書館」。それぞれの

頻度は、名鉄知多半田駅が平日ほぼ毎日以上の利用が約7%存在しており通勤・通学と考えられる。週1～4日程度の割合は「図書館」の方が「名鉄知多半田駅」より高い割合

- ・改善した場合、知多バスで行きたい方面としては、名鉄知多半田駅周辺、半田市役所・市立半田病院周辺、乙川駅周辺（パワードーム半田）、図書館・博物館・体育館周辺、イオン半田店周辺と分散

6 バスと鉄道の乗継

- ・乗り継ぎの条件としては、「待ち時間が短い」が最も多い

7 タクシーの利用状況

- ・回答者の半数以上が、タクシーは「利用しない」と回答。次いで年に1～5回程度（約30%）は「自宅」や「名鉄知多半田駅」から利用

8 最寄り駅と自宅間の移動手段に対する支払意思額

- ・「0円」以外では、「100円～300円」が比較的多い

9 今後の半田市における交通政策のあり方

- ・現在のバス路線維持に対する負担額（1人あたり年間約286円）は、「妥当である」が半数以上
- ・今後の公共交通への対応としては、「経費を増額してでも利便性の向上を目指すべき」が最も多く約32%を占めた

10 自由意見

- ・回答の約30%に自由意見あり
- ・最も多い意見は、周辺市町で運行しているコミュニティバス（小型車両、安価な運賃、きめ細かな運行）の運行（復活）であり、現在の知多バスが目的地（買い物や最寄駅）に行けないこと、一部の利用者しか利用できない（バス停から遠い）ことなどが理由として挙げられていた